

科目名	研究法A					単位数	2	時間数	15	
授業形態	講義	対象学生	OT 3年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	301教室、パソコン室	
授業概要	作業療法の実践場面で遭遇する疑問や関心を解決するために、研究法の基礎を学ぶ。									
一般目標	作業療法国家試験に出題される範囲(研究倫理、研究方法等)の学習は修了し、国家試験問題を解答することができる。									
テキスト 参考書等	教科書:なし 参考書:作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた(医学書院)、標準作業療法学 専門分野 作業療法研究法 第2版(医学書院)、その他									

到達目標		
知識(認知領域) ・研究法で扱われる用語の意味を理解し、説明できる。		
技術(精神運動領域) ・文献検索ができる。それを、まとめられる。		
態度(情意領域) ・毎回の授業に遅刻、早退、欠席することなく参加できる。		
回数	授業内容	授業目標
1	研究法概論①	作業療法研究とは何かを説明できる。研究のプロセスを説明できる。
2	研究法概論②	文献検索の方法を説明できる。また、文献を検索できる。
3	研究法概論③	研究のアイデアから研究デザインまでの過程を知る。主な研究デザインを説明できる。
4	研究法概論④	研究倫理を説明できる。
5	研究疑問と文献検索①	研究疑問を解決できる文献を検索できる。また、文献内容を説明できる。
6	研究疑問と文献検索②	研究疑問を解決できる文献を検索できる。また、文献内容を説明できる。
7	量的研究①	量的研究とは何かを説明できる。
8	量的研究②	量的研究とは何かを説明できる。
9	質的研究①	質的研究とは何かを説明できる。
10	質的研究②	質的研究とは何かを説明できる。
11	事例研究①	事例研究とは何かを説明できる。
12	事例研究②	事例研究とは何かを説明できる。
13	統計①	統計学が必要な理由を説明できる。統計に関する専門用語を説明できる。パラメトリック検定を実践できる。
14	統計②	統計に関する専門用語を説明できる。パラメトリック検定を実践できる。
15	統計③	統計に関する専門用語を説明できる。国家試験問題を解答できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席				欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	東野 幸夫		実務経験紹介	作業療法士領域での研究実績がある。	

科目名	研究法B					単位数	2	時間数	15	
授業形態	講義	対象学生	OT 3年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	301教室	
授業概要	事例報告・事例研究とは何かを理解する。臨床実習前の文献検索・レビュー、臨床実習後のレジюме作成(事例報告)を通じて、臨床における思考過程を理解することを主たる目的とする。									
一般目標	・臨床実習において必要な文献を検索できる。・検索後、論文をまとめ、その内容を説明できる。・臨床実習事例報告(レジюме)の焦点化や考察で論理的に事例の状態を説明できる。・文献を参考、引用し、より根拠ある考察をすることができる。									
テキスト 参考書等	作業で創るエビデンス～作業療法士のための研究法の学びかた～(医学書院)									

到達目標		
知識(認知領域) ・事例研究と事例報告の違いを説明できる。		
技術(精神運動領域) ・必要な文献を検索し、まとめて説明することができる。・規程どおりにレジюме作成ができる。指導後にレジюмеを修正できる。		
態度(情意領域) 個人ワークで論文を枠組みに沿ってまとめることができ、それをメンバーに説明することができる。グループワークに積極的に参加することができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	事例報告・事例研究とは	事例研究と事例報告の違いを理解し、事例報告のプロセスを説明できる。
2	文献研究①	臨床実習Ⅰ期関連領域の文献を検索し、内容をまとめることができる。
3	文献研究②	臨床実習Ⅰ期関連領域の文献を検索し、内容をまとめることができる。
4	文献研究③	臨床実習Ⅰ期関連領域の文献を検索し、内容をまとめ、発表できる。
5	文献研究④	臨床実習Ⅱ期関連領域の文献を検索し、内容をまとめることができる。
6	文献研究⑤	臨床実習Ⅱ期関連領域の文献を検索し、内容をまとめることができる。
7	文献研究⑥	臨床実習Ⅱ期関連領域の文献を検索し、内容をまとめ、発表できる。
8	事例研究Ⅰ期	臨床実習事例をレジюмеでまとめることができる。
9	事例研究Ⅰ期	臨床実習事例をレジюмеでまとめることができる。
10	事例研究Ⅰ期(文献検索)	臨床実習事例をレジюмеでまとめることができる(文献を参考、引用できる)。
11	文献研究⑦	実習報告会発表後の振り返りを通じて根拠ある考察をすることができる。
12	事例研究Ⅱ期	臨床実習事例をレジюмеでまとめることができる。
13	事例研究Ⅱ期	臨床実習事例をレジюмеでまとめることができる。
14	事例研究Ⅱ期(文献検索)	臨床実習事例をレジюмеでまとめることができる(文献を参考、引用できる)。
15	文献研究⑧	実習報告会発表後の振り返りを通じて根拠ある考察をすることができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト				評価なし	
宿題授業外レポート				評価なし	
授業態度			○	30	
発表・作品	○	○	○	70	
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	
担当教員	角田 明由葉		実務経験紹介	作業療法領域での研究実績あり	

科目名	作業療法管理学					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 3年	学期	前期・後期	教員実務経験		有	使用教室	301教室
授業概要	作業療法士として働くうえで最低限必要な制度などについて、またチーム医療での働き方について具体的な内容を取り上げて講義する。作業療法士国家試験の出題範囲は網羅して学習する。									
一般目標	作業療法部門の組織体系について理解し、病院・施設等での役割について理解する。また、作業療法に関わる診療報酬や施設認可の規定、記録等の個人情報の取り扱い、医療事故・ヒアハットに対する危機管理等の実際や、守秘義務等のチーム医療で必須となる職業倫理について理解を深める。作業療法士国家試験を解答できる。									
テキスト 参考書等	作業療法管理学入門 第3版(医歯薬出版)									

到達目標		
知識(認知領域) ・作業療法部門の管理・運営について説明できる。 ・管理・運営に関する法律・制度について理解する。		
技術(精神運動領域) 特になし		
態度(情意領域) 授業に参加できる。		
回数	授業内容	授業目標
1	講義オリエンテーション 作業療法におけるマネジメント	講義内容や成績評価及び方法を説明できる。 マネジメントの資源とその特性を理解できる。PDCAサイクルの各要素と考え方を理解できる。目標設定の重要性を理解できる。
2	組織の成り立ちとマネジメント	組織の仕組みを理解できる。組織における集団と個人の関係性を理解できる。病院組織における作業療法の役割を理解できる。
3	情報のマネジメント	情報の種類とその違いを理解できる。情報の階層性に応じて行動が変わることを理解できる。診療情報の役割と記録の基本原則を理解できる。
4	作業療法と医療サービス	サービスとは何かを理解できる。サービスの基本的特性と構成を理解できる。医療におけるサービスの特徴を理解できる。
5	医療安全のマネジメント	アクシデント、インシデント、医療過誤、ヒューマンエラーを理解できる。医療事故を減少させるための方法を考察できる。
6	作業療法業務のマネジメント①	新人教育および人材育成の重要性を理解できる。
7	作業療法業務のマネジメント②	情報とか何か、タイムマネジメントやストレスマネジメントとは何かを理解できる。
8	作業療法業務のマネジメント③	作業療法実践のための業務管理と人材育成について理解できる。小テスト実施。
9	作業療法の役割と職域	作業療法の法的根拠を理解できる。作業療法に関連する法律および定義を理解できる。職能団体の意義と役割を理解できる。
10	作業療法士の職業倫理	倫理的態度について理解できる。作業療法士の職業倫理・研究倫理について理解できる。ハラスメントとその防止について理解できる。
11	作業療法をとりまく諸制度①・②	病院や診療所、介護・福祉施設といった作業療法士が所属する事業所の運営に関連する制度を理解する。
12	作業療法教育	教育と学習の本来の意味を理解する。
13	作業療法臨床実習の理解と管理体制	作業療法教育課程における臨床実習の位置づけを理解する。作業療法臨床実習の到達目標と評価について理解できる。作業療法臨床実習の指導体制および指導方法について理解できる。作業療法臨床実習で求められる学生の資質について理解できる。
14	管理学まとめ 作業療法士国家試験対策	各講義の内容を振り返り、説明できる。また、作業療法士国家試験問題を解答できる。
15	作業療法士のキャリア開発	学会、研修会への参加・発表方法を理解する。山口県作業療法学会へ参加し講演等を聴講できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上
小テスト	○			20	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席				欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	山崎 由真		実務経験紹介	作業療法士として病院での臨床経験がある。	

科目名	精神障害作業療法評価法実習					単位数	1	時間数	30	
授業形態	実習	対象学生	OT 3年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	301教室	
授業概要	精神科作業療法で用いる評価法を体験的に理解し、留意点を意識しながら演習に取り組んでもらう。									
一般目標	精神科作業療法における評価の流れを理解、実施する。									
テキスト 参考書等	・精神障害と作業療法 新版(三輪書店) ・作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 精神障害作業療法学(メジカルビュー社) ・精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版(中央法規)									

到達目標		
知識(認知領域) 各種評価法の手順や留意点を挙げることができる。		
技術(精神運動領域) 1. 関与・非関与観察を行い、評価表に沿って記録する。 2. 作業療法導入面接を行い、面接で聴取すべきポイントを押さえる。 3. 情報収集面接を行い、面接で聴取すべきポイントを押さえる。 4. 作業面接を行い、作業遂行力評価のポイントを押さえる。 5. 節度ある態度、言葉遣いで面接することができる。		
態度(情意領域) 授業に参加できる。居眠りや私語をすることなく、意欲的に授業に取り組むことができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	オリエンテーション・復習	前期講義内容の精神科作業療法の手順や各項目の詳細を説明することができる。
2	観察①	関与観察における評価項目を列挙し、その項目を観察することができる。
3	観察②	2の講義で観察された事実を評価表に記録することができる。
4	観察③	対象者の1週間の様子を非関与観察し、評価表に記録することができる。
5	インテーク面接	インテーク面接の概要(目的、効果)、手順、留意点を列挙、演習・記録出来る。
6	インテーク面接	インテーク面接の概要(目的、効果)、手順、留意点を列挙、演習・記録出来る。
7	インテーク面接	インテーク面接を経験し、手順、留意点を再度列挙、説明することができる。
8	インテーク面接	面接情報をプロセスレコードに記録し、自身の言動を振り返ることができる。
9	情報収集面接(COPM、ADOC)	情報収集面接(COPM、ADOC)の概要(目的、効果)、手順、留意点を列挙、演習・記録出来る。
10	情報収集面接	情報収集面接で得られた情報をプロセスレコードに記録し、自身の言動を振り返ることができる。
11	作業面接	作業面接の概要、手順、留意点を説明でき、箱作り法を実施することができる。
12	作業面接	作業遂行記録表に作業面接での対象者の様子を記録することができる。
13	作業面接(交互色彩分割法)	作業面接(交互色彩分割法)を実施し、手順、評価視点を説明することができる。
14	精神科作業療法評価の流れの復習	精神科作業療法評価の流れを説明することができる。
15	まとめと試験対策	精神科作業療法評価の流れを説明することができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度			○	評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	藤井 浩希		実務経験紹介	精神科病院で13年臨床経験あり。臨床実習指導者講習会、理学療法士・作業療法士専任教員養成講習会受講。	

科目名	運動器障害作業療法学実習A					単位数	1	時間数	30	
授業形態	実習	対象学生	OT 3年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	レクリエーション室	
授業概要	この授業では運動器障害の治療手段として用いられる基本的な手技を安全・正確に行うことを修得する。									
一般目標	・自己紹介および対象者の氏名を確認するなどの基本的対応を習得する。・治療の目的、方法を対象者に説明し了承を得るなどの、インフォームドコンセントに関する基本的対応を習得する。・対象者の疾患、状態、Needに合わせた基礎的な治療技術を習得する。・治療を適切な方法、時間内で実施する技術を習得する。									
テキスト 参考書等	標準作業療法学 作業療法評価学(医学書院) / 標準作業療法学 身体機能作業療法学(医学書院) 実践リハ評価マニュアル 臨床ROM(ヒューマン・プレス) / 新・徒手筋力評価法(協同医書出版社) / 作業療法 技術ガイド(文光堂)									

到達目標		
知識(認知領域) 各治療内容について、その対象、実施方法、注意事項を理解し説明出来る。		
技術(精神運動領域) 各治療内容について、その方法、場所、時間、使用機材を適切に用い実施出来る。 治療対象者に対し、適切な言葉使い(敬語を使用し専門用語を使用しない)、態度(目線を合わせるなど)が出来る。		
態度(情意領域) 授業に出席する。 主体的に授業に参加できる。学生同士で知識を共有しながら取り組み、疑問点は教員に聞くことができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	オリエンテーション 運動療法とは	運動器疾患における運動療法の意義を理解し説明することができる。 授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。
2	関節可動域訓練①(関節包内運動、関節モビライゼーション)	正常な関節を徒手的に動かした際の感触(最終域、緩み、滑り、転がりなど)を体感し理解することが出来る。 授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。
3	関節可動域訓練②(関節包内運動、関節モビライゼーション)	関節可動域訓練を学生同士で体験し、適切な触れ方、動かし方、力加減を習得する。 授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。
4	関節可動域訓練③(ストレッチング、セルフエクササイズ)	IDストレッチングを用い、ストレッチングの基礎を学ぶ。筋生理学・解剖学を復習・確認しつつ実施出来るようになる。 授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。
5	関節可動域訓練④(ストレッチング、セルフエクササイズ)	IDストレッチングを用い、ストレッチングの基礎を学ぶ。筋生理学・解剖学を復習・確認しつつ実施出来るようになる。 授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。
6	筋力増強訓練①	筋力増強・筋持久力向上のメカニズム、運動負荷とリスクの関連を理解し説明することが出来る。 基礎的な筋力増強訓練を実施出来る。 授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。
7	筋力増強訓練②	筋力増強・筋持久力向上のメカニズム、運動負荷とリスクの関連を理解し説明することが出来る。 基礎的な筋力増強訓練を実施出来る。 授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。
8	筋力増強訓練③	筋力増強・筋持久力向上のメカニズム、運動負荷とリスクの関連を理解し説明することが出来る。 基礎的な筋力増強訓練を実施出来る。 授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。
9	筋力増強訓練④	筋力増強・筋持久力向上のメカニズム、運動負荷とリスクの関連を理解し説明することが出来る。 基礎的な筋力増強訓練を実施出来る。 授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。
10	感覚・知覚再教育①	知覚再教育のための基礎知識を理解し説明することが出来る。 基礎的な知覚再教育を実施出来る。 授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。
11	感覚・知覚再教育②	基礎的な知覚再教育を実施出来る。 授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。
12	物理療法	物理療法の基礎を学び、その方法、効果、禁忌等を学び、必要に応じ実施出来る。 授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。
13	模擬患者練習①	関節可動域訓練、筋力増強訓練を訓練プログラムとして模擬患者に実施出来る。 授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。
14	模擬患者練習②	関節可動域訓練、筋力増強訓練を訓練プログラムとして模擬患者に実施出来る。 授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。
15	まとめ	学んだ治療手技組み合わせ、接遇を含め適切に実施出来る。 授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度			○	20	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	石丸拓也(山崎由真)		実務経験紹介	石丸:作業療法士として臨床15年、教育機関で8年の実務経験がある。	

科目名	運動器障害作業療法学実習B				単位数	1	時間数	30	
授業形態	実習	対象学生	OT 3年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	レクリエーション室
授業概要	臨床実習では対象者に対して適切な評価・治療を実施する必要がある。本授業では客観的臨床能力試験(OSCE)を通じて作業療法に必要な主要な評価・治療方法を学習する。								
一般目標	各種評価、治療を実施する技術を身につける。								
テキスト 参考書等	PT・OTのための臨床技能とOSCE（コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版／機能障害・能力低下への介入編）（金原出版）								

到達目標		
知識(認知領域) ・各種評価、治療の方法について説明できる。		
技術(精神運動領域) ・各種評価、治療を実施できる。		
態度(情意領域) ・授業に積極的に参加することができる。(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する) ・授業に出席する。		
回数	授業内容	授業目標
1	客観的臨床能力試験(OSCE)に関するオリエンテーション(石丸)	OSCEの概要について説明できる。 第1回OSCEに向けて計画を立てることができる。
2	OSCE事前講座(医療面接)(角田)	対象者に医療面接を実施できる。
3	OSCE事前講座(BRS)(藤井)	対象者にBRSテストを実施できる。
4	OSCE事前講座(感覚検査)(梅本)	対象者に感覚検査を実施できる。
5	OSCE事前講座(反射検査)(東野)	対象者に反射検査を実施できる。
6	OSCE事前講座(関節可動域測定)(山崎)	対象者にROM測定を実施できる。
7	OSCE事前講座(起き上がり)(角田)	対象者に起き上がり指導を実施できる。
8	OSCE事前講座(更衣)(山崎)	対象者に更衣(上衣)動作指導を実施できる。
9	OSCE事前講座(車椅子駆動)(藤井)	対象者に車椅子駆動指導を実施できる。
10	OSCE事前講座(起立・着座)(東野)	対象者に起立・着座指導を実施できる。
11	OSCE事前講座(血圧・脈拍)(梅本)	対象者に血圧・脈拍測定を実施できる。
12	OSCE準備	OSCE試験の環境を整え、試験の流れ、手順、実技の最終確認が出来る
13	OSCEフィードバック(石丸、他)	OSCEの内容を振り返り、課題解決に向けた計画立案ができる。
14	OSCEフィードバック(石丸、他)	OSCEの内容を振り返り、課題解決に向けた計画立案ができる。
15	OSCEフィードバック(石丸、他)	OSCEの内容を振り返り、課題解決に向けた計画立案ができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習		○		評価なし	()内はGPA点数
出席			○	欠格条件	
担当教員	藤井 浩希、角田 明由葉、他		実務経験紹介	各担当者が各領域での作業療法を実践した経験を10年以上有している(石丸)。	

科目名	運動器障害作業療法学実習C					単位数	1	時間	30	
授業形態	実習	対象学生	OT 3年	学期	前期・後期	教員実務経験	有	使用教室	301教室・レクリエーション室	
授業概要	臨床実習に向け、演習・実習を通して運動器障害をもつ事例への評価計画からプログラム立案まで一連の作業療法の流れを学ぶ。									
一般目標	運動器障害をもつ模擬事例への評価計画を立て、プログラム立案までの一連の流れを実施できる。									
テキスト 参考書等	標準作業療法学 作業療法評価学 第4版(医学書院) / 標準作業療法学 身体機能作業療法学 第3版(医学書院) 作業療法技術ガイド(文光堂) / 脳卒中の機能評価SIASとFIM(金原出版株式会社)									

到達目標		
知識(認知領域) 運動器障害を持つ事例に対して、作業療法の流れを列挙しその根拠を説明できる。		
技術(精神運動領域) 運動器疾患を持つ事例に対して、評価計画・作業療法実施計画を立案することができる。 運動器疾患を持つ模擬患者に対して、評価計画に従い評価を実施することができる。収集した情報を適切にまとめることができる。		
態度(情意領域) 授業に出席する。 主体的に授業に参加できる。学生同士で知識を共有しながら取り組み、疑問点は教員に聞くことができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	オリエンテーション 事例検討 疾患概要	運動器作業療法における思考・実践プロセスについて理解し、説明することが出来る。 他部門から得られる情報を整理できる。事例の疾患概要を調べることが出来る。 主体的に授業に参加し、積極的に発言・質問できる。
2	他部門情報、OT評価計画	ボトムアップ・アプローチとトップダウン・アプローチ両方の視点から評価計画を立てることが出来る。 評価項目を列挙できる。評価手順を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に発言・質問できる。
3	OT評価計画	作業療法評価の手段、方法、必要な道具について説明出来る。評価に必要な環境設定を説明出来る。 評価に必要な評価用紙およびマニュアルを整理することが出来る。 主体的に授業に参加し、積極的に発言・質問できる。
4	全体像の把握	評価結果から問題点と利点を列挙することが出来る。 評価結果をICFシートに記載することが出来る。 主体的に授業に参加し、積極的に発言・質問できる。
5	評価結果の分析・解釈	問題点を整理することが出来る。 ICFシートの「相互作用モデル」「独立性」について検討し、機能・活動・参加の予後予測ができる。 主体的に授業に参加し、積極的に発言・質問できる。
6	問題点の抽出	整理された問題点に優先順位をつけることができる。 主体的に授業に参加し、積極的に発言・質問できる。
7	目標設定	治療目標(リハビリテーションゴール、長期目標、短期目標)を立案することが出来る。 主体的に授業に参加し、積極的に発言・質問できる。
8	OT実施計画立案	OT実施計画を立てることが出来る。 主体的に授業に参加し、積極的に発言・質問できる。
9	まとめ	評価計画や実施計画を振り返り、修正案を立てることが出来る。 主体的に授業に参加し、積極的に発言・質問できる。
10	模擬患者 評価計画・評価実施(面接)	面接、観察で情報を得ることを前提に、得るべき情報・ADL評価の項目を列挙出来る。 対象患者の障害像をイメージし、質問項目や観察項目に優先順位をつけることが出来る。 列挙した評価項目について、面接を行うことが出来る。 対象者に対し、体調確認やバイタルチェックができる。 対象者に対し、適切な言葉使い、態度が出来る。 レジメに沿って得られた情報を整理することができる。FIMの点数をつけることが出来る。 主体的に授業に参加し、積極的に発言・質問できる。
11	評価計画・評価実施(面接)	
12	評価計画・評価実施(面接)	
13	評価計画・評価実施(計測)	検査・計測で情報を得ることを前提に、得るべき情報や検査項目を列挙出来る。 対象患者の障害像をイメージし、検査項目に優先順位をつけることが出来る。 列挙した検査項目を、対象者に負担や苦痛を与えることなく実施することが出来る。 起居や移乗の指導・介助が出来る。転倒予防の配慮が出来る。 対象者に対し、適切な言葉使い、態度が出来る。 レジメに沿って得られた情報を整理することができる。 主体的に授業に参加し、積極的に発言・質問できる。
14	評価計画・評価実施(計測)	
15	まとめ	

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度			○	20	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席				欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	石丸拓也(山崎由真)		実務経験紹介	作業療法士として臨床15年、教育機関で8年の実務経験がある。(石丸)	

科目名	内部障害作業療法学				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 3年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	301教室
授業概要	内部障害の作業療法について評価・治療を通して基本的な知識を学ぶ。								
一般目標	内部障害の評価について説明できる、また作業療法について説明できる。								
テキスト 参考書等	標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版(医学書院)								

到達目標		
知識(認知領域) 各疾患について説明できる。それぞれに対応する評価・治療を説明できる。		
技術(精神運動領域) 評価・治療の実施手順を説明できる。		
態度(情意領域) 居眠りや私語することなく、意欲的に授業に取り組むことができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	呼吸器疾患の基礎	作業療法士が関わる呼吸器疾患の基礎知識を説明できる。
2	呼吸器疾患の作業療法評価	呼吸器疾患の作業療法評価を説明できる。
3	呼吸器疾患の作業療法①	呼吸器疾患の作業療法を説明できる。
4	呼吸器疾患の作業療法②	事例を通して評価・治療を説明できる。
5	循環器疾患の基礎	作業療法士が関わる循環器疾患の基礎知識を説明できる。
6	循環器疾患の作業療法評価	循環器疾患の作業療法評価を説明できる。
7	循環器疾患の作業療法①	循環器疾患の作業療法を説明できる。
8	循環器疾患の作業療法②	事例を通して評価・治療を説明できる。
9	内分泌代謝疾患の作業療法評価	作業療法士が関わる内分泌代謝疾患の基礎知識を説明できる。
10	内分泌代謝疾患の作業療法①	内分泌代謝疾患の作業療法評価を説明できる。
11	内分泌代謝疾患の作業療法②	内分泌代謝疾患の作業療法を説明できる。
12	悪性腫瘍の作業療法評価	作業療法士が関わる悪性腫瘍の基礎知識を説明できる。
13	悪性腫瘍の作業療法①(鈴木)	悪性腫瘍による浮腫に対する知識と後療法(リンパドレナージ等)について説明できる。
14	悪性腫瘍の作業療法②(鈴木)	悪性腫瘍による浮腫に対する知識と後療法(リンパドレナージ等)について説明できる。
15	まとめ	

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度			○	評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	梅本 早矢香、外部講師		実務経験紹介	作業療法士として9年勤務経験あり	

科目名	神経障害作業療法学実習A					単位数	1	時間数	30	
授業形態	実習	対象学生	OT 3年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	301教室	
授業概要	神経障害を呈する対象者に対する作業療法実施にあたって必要とされる基本的知識・技術を学習する。									
一般目標	神経障害を呈する対象者に対する作業療法実施にあたって必要とされる基本的知識・技術を習得する。									
テキスト 参考書等	リハ実践テクニック脳卒中第4版　メディカルビュー社、標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　第3版　医学書院									

到達目標		
知識(認知領域) 神経障害を呈する対象者に対する作業療法実施にあたって必要とされる知識を習得できる。		
技術(精神運動領域) 神経障害を呈する対象者に対する作業療法について、説明ができ、模擬実施ができる。		
態度(情意領域) 授業に積極的な態度で参加できる。授業に出席する。		
回数	授業内容	授業目標
1	オリエンテーション 脳血管障害の作業療法 ROMex、上肢の自動助運動について	脳血管疾患事例に対する作業療法について、説明と模擬実施ができる。 回復程度に応じた筋再教育訓練、ROMex(体幹・骨盤帯、肩甲骨・肩・手指・股・膝・足)
2	脳血管障害の作業療法 基本動作と座位・起立の訓練	基本動作訓練(寝返り、起居動作、起立)、座位訓練、座位バランス訓練、立位保持訓練について説明と模擬実施ができる。
3	脳血管障害の作業療法 上肢の自動運動、筋力訓練について 物を使用した訓練の考案	上肢の自動助運動(片麻痺体操、スケーターボード)が実施できる上肢の自動運動訓練を説明、実施できる。サンディング、ワイピング、輸入、アクリルコーンなどの使用方法を習得できる。作業療法物品を使用しながら、目的に応じた自動運動訓練を考案できる。
4	脳血管障害の作業療法 床からの起立、動作分析と訓練	床からの起立について動作分析ができる。片麻痺患者の床からの立ち上がり訓練、床上動作訓練が実施できる。
5	脳血管障害の作業療法 手指機能訓練	手指動作訓練(お手玉、ブロック、セラプラスと、洗濯ばさみ、ペグ、ひも通し、セラプラス、ねじ、箸など)BRS回復段階に応じた治療の選択と実施ができる。
6	脳血管障害の作業療法 ADL動作評価	模擬患者のADL動作を観察し、FIMの点数をつけることができる。
7	脳血管障害の作業療法 FIMの採点と移乗動作訓練	ADLの観察からFIMの点数をつけることができる。
8	脳血管障害の作業療法 ADL動作訓練更衣(上衣)	片麻痺患者の更衣動作(上衣)の着脱訓練について、動作分析し説明と実施ができる。
9	脳血管障害の作業療法 ADL動作訓練更衣(下衣)・排泄	片麻痺患者の更衣動作(下衣)の着脱訓練について、動作分析し説明と実施ができる。
10	脳血管障害の作業療法 歩行訓練・入浴動作訓練	作業療法における歩行訓練の意義を説明できる。また、歩行補助具の種類と歩行訓練の方法が実施できる。応用歩行訓練について説明できる。入浴動作の分析と、訓練が模擬的に実施でき、環境調整について考えることができる。
11	片麻痺患者への家事動作訓練	IADL(洗濯、調理、庭仕事等)の動作分析と、評価のポイントを説明することができる。また調理動作の分析と片麻痺患者の課題について考え、自助具の選択と使用法が説明できる。
12	片麻痺患者への調理訓練	実際に片手調理をするにあたり、作業の分析と計画を立てることができる。必要な自助具を準備することができる
13	片麻痺患者への調理訓練	片手調理をすることで、患者さんの気持ちに寄り添い、どのように工夫したらよいかわかることができる。また、どのような自助具があれば便利かわかることができ、自分の考えをレポートにまとめることができる。
14	脳卒中の治療 ①いろいろな治療について ②Pusher現象に対する訓練について	CI療法、促通反復療法、ロボット治療、電気刺激療法などの説明ができる。Pusher現象に対する訓練が実施できる。
15	まとめ	これまで学習してきた内容を振り返り、知識の補充、技術の練習により模擬実施ができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート	○			30	良(2):70点以上
授業態度			○	50	可(1):60点以上
発表・作品	○			20	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	()内はGPA点数
出席			○	欠格条件	
担当教員	角田 明由葉		実務経験紹介	病院勤務にて神経障害患者に対する作業療法実践経験あり	

科目名	神経障害作業療法学実習B					単位数	1	時間数	30	
授業形態	実習	対象学生	OT 3年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	301教室	
授業概要	神経障害を呈する対象者に対する作業療法実施にあたって必要とされる基本的知識・技術を学習する。									
一般目標	神経障害を呈する対象者に対する作業療法実施にあたって必要とされる基本的知識・技術を習得する。									
テキスト 参考書等	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版 医学書院									

到達目標		
知識(認知領域) 神経障害を呈する対象者に対する作業療法実施にあたって必要とされる知識を習得できる。		
技術(精神運動領域) 神経障害を呈する対象者に対する作業療法実施にあたっての評価項目と治療プログラムの立案ができる。		
態度(情意領域) 授業に積極的な態度で参加できる。授業に出席する。		
回数	授業内容	授業目標
1	脳血管疾患模擬事例を読み、疾患について教科書や電子書籍等で調べる。	提示された模擬事例の疾患について、分からないところを調べ、理解することができる。
2	脳血管疾患模擬事例に対し評価項目を列挙する	提示された模擬事例の疾患について、問題点を抽出し、必要な評価項目を列挙することができる。
3	脳血管疾患模擬事例に対し目標を設定し、治療プログラムを立案	脳血管疾患模擬事例に対し目標を設定し、治療プログラムを立案することができる。
4	脳血管疾患模擬事例に対しまとめたレポートを発表する	レポートをまとめ、グループで分かりやすく発表することができる。
5	認知症の模擬患者事例を読み、疾患について調べてまとめる	提示された模擬事例の疾患について、分からないところを調べ、理解することができる。
6	認知症の模擬患者事例に対し評価項目を列挙する	提示された模擬事例の疾患について、問題点を抽出し、必要な評価項目を列挙することができる。
7	認知症模擬事例に対し目標を設定し、治療プログラムを立案する	認知症模擬事例に対し目標を設定し、治療プログラムを立案することができる
8	認知症模擬事例に対してまとめたレポートを発表する	レポートをまとめ、グループで分かりやすく発表することができる。
9	パーキンソニズムの作業療法に関して実践しながら技術を学ぶ	パーキンソン病やパーキンソニズムに対する作業療法について理解し、模擬的に実施することができる。
10	パーキンソン病模擬事例を読み、疾患について調べる	パーキンソン病事例を読み、分からないところを調べ、理解することができる。
11	パーキンソン病模擬事例に対し評価項目を列挙する	パーキンソン病模擬事例を読み、必要な評価項目を列挙することができる。
12	パーキンソン病模擬事例に対し目標を設定し、治療プログラムを立案する	パーキンソン病模擬事例を読み、目標を設定し治療プログラムを立案することができる。
13	パーキンソン病模擬事例についてまとめたレポートを発表する	レポートをまとめ、グループで分かりやすく発表することができる。
14	脊髄小脳変性症、小脳病変に対する作業療法について実践しながら技術を学ぶ	脊髄小脳変性症、小脳病変に対する作業療法について技術を学ぶことができる。
15	まとめ	これまでの授業を振り返り、分からなかった部分などを復習することができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト				評価なし	
宿題授業外レポート	○			40	
授業態度			○	20	
発表・作品	○			40	
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	
担当教員	角田 明由葉		実務経験紹介	病院勤務にて神経障害患者に対する作業療法実践経験あり	

科目名	神経障害作業療法学実習C					単位数	1	時間数	30	
授業形態	演習	対象学生	OT 3年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	301教室・レクリエーション室	
授業概要	高次脳機能障害を有する方に対する作業療法の評価法の詳細や介入法の知識を学習する。									
一般目標	・高次脳機能障害を有する方に作業療法を実施する際必要とされる検査を実施する知識・技術を習得する。 ・事例検討を通して作業療法評価を立案する知識を習得する。									
テキスト 参考書等	標準作業療法学 専門分野 高次脳機能作業療法学(医学書院)									

到達目標		
知識(認知領域) 各検査の実施方法を説明できる。 事例検討に必要な情報を説明できる。		
技術(精神運動領域) 検査を実施できる。 事例検討のまとめをレジュメとして作成できる。		
態度(情意領域) 積極的な態度で授業に参加しグループワークを行うことができる。授業に出席する。		
回数	授業内容	授業目標
1	事例検討① 模擬事例提示。内容を理解するために調べ学習する。	担当した内容を調べることができる。また、それらを説明できる。
2	事例検討② 内容を理解するために調べ学習する。	担当した内容を調べることができる。また、それらを説明できる。
3	事例検討③ 情報の整理	情報に優先順位をつけることができる。
4	事例検討④ 情報の整理	情報に優先順位をつけることができる。
5	事例検討⑤ 作業療法評価計画立案	情報から作業療法評価を立案できる。
6	事例検討⑥ 作業療法評価計画立案	情報から作業療法評価を立案できる。
7	授業オリエンテーション 検査実施準備	担当の検査実施の準備ができる。
8	模擬患者へ検査実施(記憶・注意・視覚認知・空間認知・前頭葉機能・スクリーニング) ※上記内容を7回に分けて実施する。	担当の検査を模擬患者へ実施できる。見学者は積極的に参加し、見学を通して検査の内容を説明できるようする。
9	模擬患者へ検査実施(記憶・注意・視覚認知・空間認知・前頭葉機能・スクリーニング) ※上記内容を7回に分けて実施する。	担当の検査実施の準備ができる。
10	模擬患者へ検査実施(記憶・注意・視覚認知・空間認知・前頭葉機能・スクリーニング) ※上記内容を7回に分けて実施する。	担当の検査を模擬患者へ実施できる。見学者は積極的に参加し、見学を通して検査の内容を説明できるようする。
11	模擬患者へ検査実施(記憶・注意・視覚認知・空間認知・前頭葉機能・スクリーニング) ※上記内容を7回に分けて実施する。	担当の検査を模擬患者へ実施できる。見学者は積極的に参加し、見学を通して検査の内容を説明できるようする。
12	模擬患者へ検査実施(記憶・注意・視覚認知・空間認知・前頭葉機能・スクリーニング) ※上記内容を7回に分けて実施する。	担当の検査を模擬患者へ実施できる。見学者は積極的に参加し、見学を通して検査の内容を説明できるようする。
13	模擬患者へ検査実施(記憶・注意・視覚認知・空間認知・前頭葉機能・スクリーニング) ※上記内容を7回に分けて実施する。	担当の検査を模擬患者へ実施できる。見学者は積極的に参加し、見学を通して検査の内容を説明できるようする。
14	模擬患者へ検査実施(記憶・注意・視覚認知・空間認知・前頭葉機能・スクリーニング) ※上記内容を7回に分けて実施する。	担当の検査を模擬患者へ実施できる。見学者は積極的に参加し、見学を通して検査の内容を説明できるようする。
15	まとめ 評価実習の流れと照合しながら確認する。	評価実習の流れと照合して評価計画立案までの流れを説明できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート	○			70	良(2):70点以上
授業態度	○			10	可(1):60点以上
発表・作品			○	20	不可(0):60点未満 未修得
演習		○		評価なし	()内はGPA点数 欠格条件
出席			○		
担当教員	角田 明由葉		実務経験紹介	病院にて神経障害患者へ作業療法実施経験あり	

科目名	精神障害作業療法学B				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 3年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	301教室
授業概要	精神障害者に対する治療の理論を学び、各疾患に対する治療の考え方や評価項目の列挙、治療計画を立案することができる。								
一般目標	精神科作業療法計画を立案する上で重要な治療理論を理解する。								
テキスト 参考書等	・精神障害と作業療法 新版(三輪書店) ・作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 精神障害作業療法学 改訂第2版(メジカルビュー社) ・精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版(中央法規)								

到達目標		
知識(認知領域) 回復状態に応じた治療介入法を具体的に述べる。 精神科作業療法の主たる対象疾患の基本的介入方法を説明することができる。		
技術(精神運動領域) 国家試験問題を通した解説作成の際、適切な文献から根拠を見出すことができ、それを論理的にまとめて説明することができる。		
態度(情意領域) 国家試験問題を通した解説作成ではグループで協力して取り組むことができる。居眠りや私語をすることなく、意欲的に授業に取り組むことができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	統合失調症に対する介入	介入ポイントを理解し、説明できる。
2	統合失調症に対する介入	介入ポイントを理解し、説明できる。
3	統合失調症に対する介入	介入ポイントを理解し、説明できる。
4	統合失調症に対する介入	介入ポイントを理解し、説明できる。
5	気分障害に対する介入	介入ポイントを理解し、説明できる。
6	気分障害に対する介入	介入ポイントを理解し、説明できる。
7	神経症に対する介入	介入ポイントを理解し、説明できる。
8	神経症に対する介入	介入ポイントを理解し、説明できる。
9	パーソナリティ障害に対する介入	介入ポイントを理解し、説明できる。
10	パーソナリティ障害に対する介入	介入ポイントを理解し、説明できる。
11	摂食障害・物質依存症に対する介入	介入ポイントを理解し、説明できる。
12	摂食障害・物質依存症に対する介入	介入ポイントを理解し、説明できる。
13	ケーススタディ	ケースを通して、OT臨床思考過程を説明できる。
14	ケーススタディ	ケースを通して、OT臨床思考過程を説明できる。
15	ケーススタディ	ケースを通して、OT臨床思考過程を説明できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト				評価なし	
宿題授業外レポート				評価なし	
授業態度			○	評価なし	
発表・作品				評価なし	
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	
担当教員	藤井 浩希		実務経験紹介	精神科病院での勤務経験(13年)。臨床実習指導者講習会、理学療法士・作業療法士専任教員養成講習会受講。	

科目名	精神障害作業療法学実習					単位数	1	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 3年	学期	前後期	教員実務経験	有	使用教室	301教室	
授業概要	精神科病院や施設に勤務する作業療法士から、実際の臨床現場での実践を聞き、作業療法士の専門性を理解することを求める。また、精神科作業療法で用いられる各治療法を知り、実習などで実践することを求めたい。									
一般目標	精神疾患の各回復状態における作業療法の実際を学び、作業療法士の役割・存在意義を理解する。履修内容を説明する。									
テキスト 参考書等	適宜プリント配布									

到達目標		
知識(認知領域) 各領域における作業療法士の役割を説明することができる。		
技術(精神運動領域) 受講後に、自分なりの考えを述べるができる。		
態度(情意領域) 演習に真面目な態度で取り組むことができる。居眠りや私語をすることなく、意欲的に授業に取り組むことができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	精神科作業療法(入院医療)における作業療法士の役割(武藤多鶴子)	入院医療における作業療法の実践を説明することができる。
2	精神科作業療法(入院医療)における作業療法士の役割(武藤多鶴子)	入院医療における作業療法の実践を説明することができる。
3	精神科作業療法(入院医療)における作業療法士の役割(武藤多鶴子)	入院医療における作業療法の実践を説明することができる。
4	精神科作業療法(入院医療)における作業療法士の役割(武藤多鶴子)	入院医療における作業療法の実践を説明することができる。
5	精神科デイケア(通院医療)における作業療法士の役割(渡辺史朗)	通院医療における作業療法の実践を説明することができる。
6	精神科デイケア(通院医療)における作業療法士の役割(渡辺史朗)	通院医療における作業療法の実践を説明することができる。
7	精神科デイケア(通院医療)における作業療法士の役割(渡辺史朗)	通院医療における作業療法の実践を説明することができる。
8	精神科デイケア(通院医療)における作業療法士の役割(渡辺史朗)	通院医療における作業療法の実践を説明することができる。
9	地域における作業療法士の役割(友村裕子)	地域や就労支援における作業療法の実践を説明することができる。
10	地域における作業療法士の役割(友村裕子)	地域や就労支援における作業療法の実践を説明することができる。
11	地域における作業療法士の役割(友村裕子)	地域や就労支援における作業療法の実践を説明することができる。
12	地域における作業療法士の役割(友村裕子)	地域や就労支援における作業療法の実践を説明することができる。
13	精神科作業療法で活用される評価法(藤井浩希)	評価を経験し、その治療的応用を考え、説明できる
14	精神科作業療法で活用される評価法(藤井浩希)	評価を経験し、その治療的応用を考え、説明できる
15	精神科作業療法で活用される評価法(藤井浩希)	評価を経験し、その治療的応用を考え、説明できる

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート	○			100	良(2):70点以上
授業態度			○	評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習		○		評価なし	
出席			○	欠格条件	
担当教員	武藤 多鶴子、渡辺 史朗、他		実務経験紹介	()内はGPA点数	
			精神科病院にて精神科作業療法に10年以上従事している(武藤、他)。		

科目名	発達障害作業療法学				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	3	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	301教室
授業概要	子供の発達過程についての基本的知識・技術を学習する。 発達障害を理解し、治療についての基本的知識・技術を学習する。 神経障害を呈する対象者に対する作業療法実施にあたって必要とされる基本的知識・技術を学習する。								
一般目標	様々な発達に関する検査について、その目的や内容に関する知識を習得する。 知的障害児、情緒障害児を理解し、治療のアプローチに関する知識を習得する。感覚統合療法について理解し、基本的技術を習得する。 神経障害を呈する対象者に対する作業療法実施にあたって必要とされる基本的知識・技術を習得する。								
テキスト 参考書等	標準作業療法学 作業療法評価学 第3版(医学書院) 発達を学ぶ 人間発達レクチャー (共同医学出版社)								

到達目標		
知識(認知領域) 感覚統合について説明できる。 神経障害を呈する対象者に対する作業療法実施にあたって必要とされる知識を習得できる。		
技術(精神運動領域) 感覚統合の評価を実施できる。 神経障害を呈する対象者に対する作業療法実施にあたっての治療計画を立案できる。		
態度(情意領域) 授業に積極的な態度で参加できる。 授業に出席する。		
回数	授業内容	授業目標
1	感覚統合の理論	感覚統合の理論について説明できる。
2	感覚統合の理論	感覚統合の理論について説明できる。
3	発達障害と感覚統合	発達障害と感覚統合の関係について説明できる。
4	発達障害と感覚統合	発達障害と感覚統合の関係について説明できる。
5	感覚統合の評価と活動の分析	感覚統合の評価について説明し実施できる。
6	感覚統合の評価と活動の分析	活動について分析できる。
7	感覚統合的アプローチ	感覚統合を用いた治療が説明できる。
8	感覚統合的アプローチ・まとめ	感覚統合を用いた治療が説明できる。
9	脳性麻痺の型と評価(久保)	脳性麻痺の病型による特性を説明でき、評価項目を考えることができる。
10	脳性麻痺に対する作業療法評価(久保)	脳性麻痺事例に対する作業療法について説明し、評価項目を考えることができる。
11	脳性麻痺に対する作業療法評価(久保)	脳性麻痺事例に対する作業療法について説明し、評価項目を考えることができる。
12	脳性麻痺のケーススタディ(久保)	脳性麻痺事例に対する作業療法についての治療計画を立案できる。
13	脳性麻痺のケーススタディ(久保)	脳性麻痺事例に対する作業療法についての治療計画を立案できる。
14	脳性麻痺に対する作業療法の実践(久保)	脳性麻痺事例に対する治療原理を考えることができる。
15	脳性麻痺へのアプローチとまとめ(久保)	脳性麻痺に対する作業療法についての治療計画を立案し、治療原理を説明できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	友村 裕子、久保 雅弘		実務経験紹介	作業療法士として発達領域における作業療法の実施経験あり。	

科目名	作業療法実践技術論				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	3	学期	前・後期	教員実務経験	有	使用教室	301教室
授業概要	領域回復期別の作業療法の現状を学ぶ。								
一般目標	臨床実習に向けて、実際の臨床現場で行われている作業療法の目的やプロセスを理解し、臨床実習での実践力を身につける。								
テキスト 参考書等	適宜資料配布								

到達目標		
知識(認知領域) 各領域における作業療法の目的やプロセスを説明できる。		
技術(精神運動領域) なし		
態度(情意領域) 居眠りや私語することなく、意欲的に授業に取り組むことができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	急性期における作業療法の実際①(池田)	急性期領域における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。
2	急性期における作業療法の実際①(池田)	急性期領域における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。
3	急性期における作業療法の実際②(吉長)	急性期領域における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。
4	急性期における作業療法の実際②(吉長)	急性期領域における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。
5	地域における作業療法の実際①(岡藤)	地域における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。
6	地域における作業療法の実際①(岡藤)	地域における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。
7	高齢期における作業療法の実際②(高岡)	高齢期領域における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。
8	高齢期における作業療法の実際②(高岡)	高齢期領域における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。
9	高齢期における作業療法の実際①(古谷)	高齢期領域における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。
10	高齢期における作業療法の実際①(古谷)	高齢期領域における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。
11	精神科病院における作業療法の実際(奴田原)	精神科領域における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。
12	精神科病院における作業療法の実際(奴田原)	精神科領域における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。
13	回復期における作業療法の実際(片山)	回復期における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。
14	回復期における作業療法の実際(片山)	回復期における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。
15	患者ボランティア(切断)	障害がありながらも、生きがいを持ち自立した生活を送る方の講話を聞くことで、作業療法士としての役割を理解できる。

成績評価方法						
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準	
定期試験				評価なし	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数	
小テスト				評価なし		
宿題授業外レポート	○			100		
授業態度			○	評価なし		
発表・作品				評価なし		
演習				評価なし		
出席			○	欠格条件		
担当教員	石丸 拓也、吉長 卓真、他		実務経験紹介	各領域で臨床勤務		

科目名	スポーツ作業療法学				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 3年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	301教室・講堂・レクリエーション室
授業概要	趣味、余暇活動は人の日常生活をより良くするための重要な要素であり、スポーツもその一つの手段である。この授業では、障がい者がスポーツを通し、楽しみ、自己実現の手段を得る事をどのようにして支援していくかを学ぶ。								
一般目標	・障がい者スポーツ対象者の病態に関する知識を習得する。 ・障がい者スポーツ指導上必要な知識を習得する。 ・障がい者スポーツに実際に関わる事で、作業療法士としての役割について理解を深める。								
テキスト 参考書等	適宜資料配布								

到達目標		
知識(認知領域) ・障がい者スポーツの理念・意義・歴史について概要を理解する事が出来る。 ・障害者スポーツ指導上必要な知識を習得する。		
技術(精神運動領域) 対象者に対する競技指導を体験・模倣できる。		
態度(情意領域) 学外活動を行う上で必要な礼節、立ち居振る舞いを学び、実践することが出来る。 居眠りや私語することなく、意欲的に授業に取り組むことができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	障がい者スポーツの意義と理念	障がい者スポーツの意義や理念を理解し、説明することが出来る。
2	全国障がい者スポーツ大会の概要	全国障がい者スポーツ大会の基本理念などを通して地域のスポーツ振興を進める役割を理解し、説明することが出来る。
3	障がい者スポーツ推進の取り組み	地域の障がい者スポーツ振興の現状を理解し、説明することが出来る。
4	障がい者スポーツに関する諸施策	障がい者福祉施策および障がい者スポーツに関する施策を理解し、説明することが出来る。
5	障がいのある人との交流(きりんピック)	障がい者との交流ができる。
6	障がいのある人との交流(きりんピック)	障がい者との交流ができる。
7	障がいのある人との交流(きりんピック)	障がい者との交流ができる。
8	障がいのある人との交流(きりんピック)	障がい者との交流ができる。
9	スポーツのインテグリティ(高潔性)と指導者に求められる資質	スポーツにおけるインテグリティを理解し、プレイヤーズファーストの視点やプレイヤーと共に学び続ける姿勢を理解し、説明することが出来る。
10	各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫	対象者が障がい者スポーツを実施するために必要な説明と支援ができる。
11	各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫	対象者が障がい者スポーツを実施するために必要な説明と支援ができる。
12	コンディショニング①	コンディショニング(ウォームアップとリカバリー・トレーニング・救急対応等)について理解し実施できる。
13	コンディショニング②	コンディショニング(ウォームアップとリカバリー・トレーニング・救急対応等)について理解し実施できる。
14	コンディショニング③	コンディショニング(ウォームアップとリカバリー・トレーニング・救急対応等)について理解し実施できる。
15	コンディショニング④	コンディショニング(ウォームアップとリカバリー・トレーニング・救急対応等)について理解し実施できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度			○	評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	石丸 拓也		実務経験紹介	一般病院に15年間勤務。作業療法士として障がい者スポーツ活動に携わった経験あり。	

科目名	臨床実習Ⅱ					単位数	8	時間数	320	
授業形態	実習	対象学生	OT 3年	学期	後期	教員実務経験		有	使用教室	301教室・各実習施設
授業概要	医療・福祉関連の実習施設で、基本的な作業療法過程を経験する。									
一般目標	各疾患において用いられる評価を経験し、評価技術を身につけるとともに各評価の意義説明できる。また、評価結果から問題点を抽出し、治療目標の設定、さらには治療計画の立案をすることができる。									
テキスト 参考書等	臨床実習Ⅱガイドブック 適宜、資料を配布する。									

到達目標		
知識(認知領域) ・対象者の疾患と治療の概要を説明できる。 ・対象者について、一般的な作業療法評価の過程が説明できる。		
技術(精神運動領域) ・対象者について、一般的な作業療法評価の過程に関連した情報を収集できる。また、文書化できる。		
態度(情意領域) ・実習に意欲的に参加できる。 ・課題等を期日までに提出できる。		
回数	授業内容	授業目標
	臨床実習ⅡⅠ期	Ⅰ期:2025年11月10日(月)～12月8日(金) 20日間 ＜評価＞ ・対象者の疾患と治療の概要を理解する。 ・担当事例特有の症状とそれに対する医学的治療方針もしくは支援方針を理解する。 ・必要な面接、観察、検査、測定 of 項目を列挙する。 ・面接、観察、検査、測定 of 項目を列挙する。 ・得られた情報や検査、測定の結果を記録する。 ・得られた情報や検査、測定の結果を基に問題点を列挙する。 ・問題点を整理する。 ＜目標設定＞ ・障害の変化を予測する。 ・長期目標を設定する。 ・短期目標を設定する。 ＜治療計画の立案＞ ・必要な治療や指導を列挙する。 ・実施する治療計画を具体的に立案する。
	臨床実習ⅡⅠ期 実習報告会	2025年12月 予定
	臨床実習ⅡⅡ期	Ⅱ期: 2026年1月8日(木)～2月4日(水) 20日間 ＜評価＞ ・対象者の疾患と治療の概要を理解する。 ・担当事例特有の症状とそれに対する医学的治療方針もしくは支援方針を理解する。 ・必要な面接、観察、検査、測定 of 項目を列挙する。 ・面接、観察、検査、測定 of 項目を列挙する。 ・得られた情報や検査、測定の結果を記録する。 ・得られた情報や検査、測定の結果を基に問題点を列挙する。 ・問題点を整理する。 ＜目標設定＞ ・障害の変化を予測する。 ・長期目標を設定する。 ・短期目標を設定する。 ＜治療計画の立案＞ ・必要な治療や指導を列挙する。 ・実施する治療計画を具体的に立案する。
	臨床実習ⅡⅡ期 実習報告会	2026年2月 予定

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			10	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート	○			90	良(2):70点以上
授業態度			○	評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習		○		評価なし	()内はGPA点数
出席			○	欠格条件	
担当教員	梅本 早矢香、他		実務経験紹介	作業療法士としての臨床経験を有し、実習生の指導経験あり。 日本作業療法士協会「臨床実習指導者講習」修了	

科目名	作業療法総括演習A					単位数	1	時間数	15	
授業形態	実習	対象学生	3年	学期	前後期	教員実務経験	有	使用教室	301教室・3階基礎医学実習室・木工金属陶工室・講堂	
授業概要	臨床実習(評価実習)に挑むために必要な書類の作成、リスク管理に関わる手技の習得、実習終了後の報告会に向けたレジメ作成を実施する。 また、地域の健康づくりの実際や、患者ボランティアとのかかわりを経て、地域における作業療法士の役割について理解する。									
一般目標	臨床実習の内容・目標が理解できる。リスク管理、救急救命に関する手技を習得できる。地域での作業療法士の役割について理解出来る									
テキスト 参考書等	適宜配布									

到達目標		
知識(認知領域) 評価から作業療法治療・訓練の一連の課程が理解できる。		
技術(精神運動領域) 提出物等における報告、連絡、相談は適宜することができる。事例報告会におけるレジメを他者に分かりやすいよう作成し、端的にまとめて報告することができる。臨床現場で必要な知識・技術(感染予防、心肺蘇生等)を身につけることができ、手順や留意点を説明することができる。		
態度(情意領域) 医療人としての倫理観を身につけることができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	臨床実習Ⅱ オリエンテーション 実習前オリエンテーション 書類作成(プロフィール・行動目標)	臨床実習の目的や課題を確認し、説明できる。実習スケジュール確認を行い、計画的に実習準備を実施する事が出来る。実習に挑む作業療法学生としての心構えや倫理、立ち居振る舞いについて学び実践することができる。自己の課題を振り返り、具体的かつ判定可能な行動目標を立案することができる。
2	事例報告書の作成指導Ⅰ期①	レジメに関するフィードバックを受けることができる。
3	事例報告書の作成指導Ⅰ期②	レジメに関するフィードバックを受けることができる。
4	事例報告書の作成指導Ⅱ期①	レジメに関するフィードバックを受けることができる。
5	事例報告書の作成指導Ⅱ期②	レジメに関するフィードバックを受けることができる。
6	チャレンジデーへの参加(石丸)	チャレンジデーに参加できる。宇部市チャレンジデーの概要や意義を説明できる。
7	チャレンジデーへの参加(石丸)	チャレンジデーに参加できる。宇部市チャレンジデーの概要や意義を説明できる。
8	小学生イベント企画・運営①	小学生イベントの企画を検討し、開催に必要な物品を準備できる。
9	小学生イベント企画・運営②	小学生や保護者に対して、作業環境を整備できる、また、必要に応じて指示したり、活動を援助することができる。
10	小学生イベント企画・運営③	小学生や保護者に対して、作業環境を整備できる、また、必要に応じて指示したり、活動を援助することができる。
11	小学生イベント企画・運営④	小学生や保護者に対して、作業環境を整備できる、また、必要に応じて指示したり、活動を援助することができる。
12	病棟におけるリスク管理(山下)	臨床実習において遭遇するであろうリスクに対し、適切なリスク管理を学び実践することができる。
13	喀痰吸引講習(看護学科教員・東野)	喀痰吸引の基礎的知識・手順・手技を習得し、実践することができる。
14	喀痰吸引講習(看護学科教員・東野)	喀痰吸引の基礎的知識・手順・手技を習得し、実践することができる。
15	レジリエンス・ストレスコーピング(三宅)	レジリエンス、ストレスコーピングを学び、実習における自身のストレスに対し適切に対処することができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度			○	評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	藤井 浩希、石丸 拓也、他		実務経験紹介	日本作業療法士協会「臨床実習指導者講習」修了(藤井)	

科目名	臨床実習セミナーⅡ					単位数	1	時間数	15	
授業形態	演習	対象学生	OT 3年	学期	前期・後期	教員実務経験	有	使用教室	301教室・レクリエーション室	
授業概要	臨床実習で対象者に対して評価や作業療法を実施するうえで最低限必要となる知識を習得するために、国家試験過去問題を活用して学習する。なお、学習方法は、個人学習、グループワークなど内容に応じて変更する。また、作業療法専門学習の一環として実技練習を行います。									
一般目標	・国試過去問題(直近3～5年)の問題を解き終わる。 ・作業療法専門の一般的技能を習得できる。									
テキスト 参考書等	・ヒント式トレーニング 基礎医学編/臨床医学編 最新版 (南山堂)									

到達目標										
知識（認知領域） ・作業療法士国家試験過去問題（直近3年）は解答できる。また、主要なテーマについては解説できる。										
技術（精神運動領域） ・作業療法専門の一般的技能を実践できる。										
態度（情意領域） ・授業に参加できる。										

回数	授業内容	授業目標
1	国試対策講座 作業療法専門技能の練習	作業療法士国家試験過去問題（直近3～5年）が解答できる。また、主要なテーマについては解説できる。 作業療法専門技能を練習し、習得できる。
2	国試対策講座 作業療法専門技能の練習	作業療法士国家試験過去問題（直近3～5年）が解答できる。また、主要なテーマについては解説できる。 作業療法専門技能を練習し、習得できる。
3	国試対策講座 作業療法専門技能の練習	作業療法士国家試験過去問題（直近3～5年）が解答できる。また、主要なテーマについては解説できる。 作業療法専門技能を練習し、習得できる。
4	国試対策講座 作業療法専門技能の練習	作業療法士国家試験過去問題（直近3～5年）が解答できる。また、主要なテーマについては解説できる。 作業療法専門技能を練習し、習得できる。
5	国試対策講座 作業療法専門技能の練習	作業療法士国家試験過去問題（直近3～5年）が解答できる。また、主要なテーマについては解説できる。 作業療法専門技能を練習し、習得できる。
6	国試対策講座 作業療法専門技能の練習	作業療法士国家試験過去問題（直近3～5年）が解答できる。また、主要なテーマについては解説できる。 作業療法専門技能を練習し、習得できる。
7	国試対策講座 作業療法専門技能の練習	作業療法士国家試験過去問題（直近3～5年）が解答できる。また、主要なテーマについては解説できる。 作業療法専門技能を練習し、習得できる。
8	国試対策講座 作業療法専門技能の練習	作業療法士国家試験過去問題（直近3～5年）が解答できる。また、主要なテーマについては解説できる。 作業療法専門技能を練習し、習得できる。
9	国試対策講座 作業療法専門技能の練習	作業療法士国家試験過去問題（直近3～5年）が解答できる。また、主要なテーマについては解説できる。 作業療法専門技能を練習し、習得できる。
10	国試対策講座 作業療法専門技能の練習	作業療法士国家試験過去問題（直近3～5年）が解答できる。また、主要なテーマについては解説できる。 作業療法専門技能を練習し、習得できる。
11	国試対策講座 作業療法専門技能の練習	作業療法士国家試験過去問題（直近3～5年）が解答できる。また、主要なテーマについては解説できる。 作業療法専門技能を練習し、習得できる。
12	国試対策講座 作業療法専門技能の練習	作業療法士国家試験過去問題（直近3～5年）が解答できる。また、主要なテーマについては解説できる。 作業療法専門技能を練習し、習得できる。
13	国試対策講座 作業療法専門技能の練習	作業療法士国家試験過去問題（直近3～5年）が解答できる。また、主要なテーマについては解説できる。 作業療法専門技能を練習し、習得できる。
14	国試対策講座 作業療法専門技能の練習	作業療法士国家試験過去問題（直近3～5年）が解答できる。また、主要なテーマについては解説できる。 作業療法専門技能を練習し、習得できる。
15	国試対策講座 作業療法専門技能の練習	作業療法士国家試験過去問題（直近3～5年）が解答できる。また、主要なテーマについては解説できる。 作業療法専門技能を練習し、習得できる。

成績評価方法					
	知識（認知領域）	技術（精神運動領域）	態度（情意領域）	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席				欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	東野 幸夫		実務経験紹介	作業療法士として、医療、福祉、教育での経験は10年以上有している。	